

## 別記様式（第4条関係）

## 会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度社会教育委員会（第2回）	
開 催 日 時	令和7年2月21日（金）15：30～17：00	
開 催 場 所	宍粟市役所3階庁議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	委員長：福田 洋平	
委 員 氏 名	(出席者) 福田 洋平、田中 美由紀、前野 良造、谷口 朱美、丸山 記七郎、大垣 陽子、林 幸一郎、土井 景子、浅田 卓、城田 秀樹 (委任状出席) 岡西 進、田住 明大	(欠席者)
事 務 局 氏 名	大砂次長 (社会教育文化財課) 清水課長、原田館長、松尾係長	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の 区分及び非公開の 理 由	<input checked="" type="radio"/> 公開・非公開	(非公開の理由)
報 告 事 項	(報告及び協議事項) ・令和6年度社会教育事業報告について ・令和7年度主な事業等(案)について ・社会教育委員の改選について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	会議次第、社協情報(小冊子)、社教連会報	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
委員	<p>1 開 会</p> <p>2 委員長あいさつ</p> <p>3 報告及び協議事項</p> <p>(1) 令和6年度社会教育事業報告について</p> <p>(2) 令和7年度主な事業等(案)について</p> <p>4 意見等</p> <p>現在、市役所1階にて無形文化財の宇原獅子舞展示スペースが設けられているが、無形文化財を恒常的に紹介できるような場所があればいいのになと思う。また本年度ユネスコ無形文化遺産に「伝統的酒造り」が登録された。宍粟市は「日本酒発祥の地」とも言われているし、民俗資料館に昔の醸造機械が展示されているが、ほとんど見に来る人がいない。こういう機会に発祥の地としてアピールする必要があるのでは。</p>
事務局	<p>宇原獅子舞はさまざまな活動や取組をされていて、4月20日に万博出演が決まっている。市としてもバックアップしていきたいと思っている。今回の展示ブースも最初市役所1階ロビーですという話だったが、確定申告の時期で使えないということで1階の一角を借りた。無形文化財の展示スペースを常設するというのはなかなか難しいので市役所、各市民局ロビーを活用していただきたい。民俗資料館はもみじまつりと藤まつりのときだけ無料開放して普段は閉館している。常設で開けておくというのは難しい。</p>
委員	<p>日本酒がユネスコに登録された件で日本ではインバウンドで外国人観光客がものすごい人数来るので、これに便乗して外国人誘致にも積極的に取り組んでいけたら。民俗資料館の醸造用具も地元の人には興味が落ちてしまっているが、外国人からしたら貴重なものなので、これを機にそういう取り組みもどうか。</p>
事務局	<p>商工観光課とも連携していこうという話もしている。文化財保存活用地域計画にも盛り込むことを考えている。</p>
委員	<p>ふれあい文化祭を各町で開催している。参加人数が減っているなかで当然場所の問題もあるが、何か連携できないか。例えばパブリックビューイングなどで、全体で文化祭の内容を共有するとか。</p>

事務局	文化協会のホームページに各事業の動画を載せていくというのならできると思うが、リアルタイムでの発信共有というのはノウハウがなく難しいと考える。
委員	子ども会事業でオセロ大会だけあるよりはそのオセロについて勉強する会があってもいいのではないか。石の取り方を知っているのと知らないのではレベルの差が出てくる。オセロに興味のある子が大会に出て終わりではなくて、オセロについての勉強会を事前に開催するのも広がりが出ておもしろいと思う。
事務局	オセロのやり方を知っているか知らないかでレベルの差が大きいというのはこちらでも把握しているので検討していきたい。
委員	学遊館にあるマウンテンバイクを借りやすくしてもらいたい。以前貸してほしいと依頼したが、メンテナンスができていないとのことで断られた。たくさんマウンテンバイクが使われずに眠っているのは非常にもったいないと思う。
事務局	メンテナンスができていなくて貸せないのか、状況が不透明なのでこちらから学遊館に確認する。
委員	令和7年度の事業で環境学習講座や子ども歴史講座がおもしろそうだと思うが、なにか計画というものはあるのか。
事務局	子ども歴史講座は今年は勾玉と標本と竹とんぼを作る事業を実施したが、内容は夏休みの体験講座になっている。史跡巡り等の講座を含めて検討したい。環境学習講座は今年度警報で中止になってしまった珪藻観察会と同様に市の自然環境についての事業を考えているが、内容については調整していく。
委員	市の講座やイベントのお知らせについてすぐーるを活用しているが、子どもの目につくことなく大人の采配で終わってしまっている気がする。ペーパーレスなのはわかるが、親より先に子どもに情報がいくようにして、子どもから親にこんな講座あるけど参加してみたいというふうな流れになるのが教育だと思う。
事務局	事業はペーパーレスで進める方向なのですぐーるを使わないという手はな

委員	<p>い。連れてくるのは親なので子どもと両方の理解がないと講座や教室には来られないので、すぐ一環以外での周知の手段としては市のホームページ、しーたん通信、学校内の掲示、広報誌等を併用していく形しかない。元のように全児童へ案内を紙ベースで配布することはないと考えている。</p> <p>他の市町には博物館等に子どもだけで来て、夏休みの自由研究とかのレベルが高い内容のものをいろんなものを調べる手段もある博物館でやっている。宍粟市には子どもたちが主体になって何かを学びたいってなったときに、そういう場が足らなさすぎると思う。何か一つはそこに行けば何か学べる機会があるっていうのはすごく大切なことだと思うし、宍粟学講座のような毎年ずっとやってるものに力を注ぐのではなくて、まだやっていないものに力を注いでいけるようになればいいのになと思う。</p>
事務局	<p>補足するが、宍粟学講座はとてもコストパフォーマンスがいい講座で1回あたり約5万円の講師で約80人の参加者がある。地域や地元の文化を学びたいということから、市外からもかなり参加が多い。ちょっとマンネリ化してるのでいろいろ趣向を変えていきたいと思う。来年度拡充事業で環境講座を計画しているので、それを足かぎりにいろいろな事業ができればと考えている。新しい施設を作るとなると、かなりハードルが高くなっていくので、今のところソフト事業を充実させながら進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>宍粟学講座はしそチャンネルで放送されているか。講座に来られる人も多いとは思いますが、放送すればもっと広がるのでは。</p>
事務局	<p>以前は放送していた講座もあったが、現在は講師の承諾や個人情報保護の関係でハードルが高くなってしまい、放送していない。</p>
委員	<p>5 社会教育委員の改選について</p> <p>事務局から委員は2年任期で改選の年度となるため引き続き留任をお願いしたい旨説明。</p> <p>6 その他意見等</p> <p>社会教育と学校教育のつながりが細い感じがする。昔は学校の先生と生徒が川に入って生物調査をしていた。社会教育で子どもたちが参加する講座にも学校の先生が参加してもいいと思う。先生が参加することで子どもたちも参加しやすくなり、そういうのが子どもの教育につながると思う。</p>

事務局	<p>社会教育と学校教育の接点というと、月に1回校長会等に出席することで社会教育事業について案内や参加募集を周知することもできるため、先生とのつながりはある。教育委員会内では、同じく月1回の部内会議にて、各課の情報共有をしている。今後も関係を密にしてやっていきたい。</p>
委員	<p>千種中は地域の人に来てもらって砂鉄を集めて鉄を作るという授業をやっている。これからはいわゆるコミュニティスクールになっていくので地域の人材を使っての学習というのが増えてくる。確かに言われるように社会教育と学校教育のつながりを強くしないとなかなか広がらない。子ども歴史講座とかの講師の先生にぜひ学校に来てもらって教えてもらってもいいし、こういう史跡が地元にありますよということで実際に行くこともいい勉強になる。この社会教育の分野と学校教育の分野がうまく融合していくのがこれから一番求められると思う。</p>
委員	<p>学校の教員の方から環境学習について依頼をいただいて、2時間授業させてもらった。学校のほうから連絡いただいたのはうれしかったし、学校教育と社会教育がこういうふうにつながっていくんだなというのを実感した。</p> <p>7 閉 会 副委員長</p> <p>17時00分 終了</p>